

アジアTOディベロップメント プロジェクト企画書



2026. 8. 28
TRIJ 事務局 児玉健太
TRIJ 技術委員会 小金澤光司



【1. イベント名】

アジアTOディベロップメントプロジェクト セカンドステージ

【2. 開催目的・背景】

- * ワールドトライアスロン(TRI)関連大会は、全世界で年間223大会が開催されている(2026年度)
- * 世界人口の約60%がアジア圏に居住しているが、アジア(AST)内でのTRI大会数は全世界の24%に過ぎない。
- * その原因は選手の育成が十分に行えていないことに加え、大会を企画運営できるスタッフの欠如による所が大きい。
- * トライアスロンジャパン(TRIJ)では、TRI主催大会を年間5回およびローカル大会を約200回開催している。
- * TRIJが、これまでに培った大会企画運営のノウハウや知見を求める声は多く、アジア圏のトライアスロン発展途上国に展開できるものである。
- * それにより、AST内でのTRI関連大会数を増やし、トライアスロン人口拡大のための一助としたい。

【3. 開催概要】

- ・開催日時 (1)大会現場での対面実習 : 年間2～3回(6月以降)
(2)オンラインディスカッション、経過報告: 年間3～4回
- ・開催場所・会場(対面): 国内開催TRI大会会場
(横浜、大阪城、蒲郡、千葉、宮崎)
- ・参加対象 : 国内でTO経験を有し、NFから次期ATDまたはTD候補と
推挙された者またはそれに準ずる者
- ・定員・参加費 (1)対面参加: 各プロジェクト(会場)当たり5名前後。
必要経費2/3をTRIJが補填(航空運賃、宿泊費)
(2)オンライン参加: 各NFから推挙された数人ずつ

【4. 参加者見込みと集客計画】

- ・AST加盟各NFを通じて対象となるTOへのアナウンス
⇒アジアトライアスロン育成担当Firasの協力入手済
- ・近い将来TRIイベント開催が予定されているNFおよびこれまで本プロジェクトへの参加経験がないNFからの参加者を優先
- ・これまで6回の大会会場でのプロジェクト活動(1st stage)に23か国から23人が参加。応募は74人と、3倍以上。ニーズは高い

【5. 運営体制】

- ・技術委員会国際大会部員(海野、門屋、栗原、小金澤)が主体となる
- ・地元加盟団体技術委員会メンバーが必要に応じて参画する

【6. 収支計画(予算)】

- ・当初は、事業の普及を目標にTRIJ2/3負担、各NF(個人)負担1/3を基本とする
- ・ASTの認知度が上がり、各NFからの評価が高まった所で、有償開催を検討する。または、AST育成部署に予算化を働きかける(2027年度実施予定)

【7. 安全管理計画】

- ・日本国内での対面実習の際には、ホテル⇔会場輸送はTRIJがケアする
- ・ベニュー建設現場立会い等では、安全管理に十二分に配慮する
(必要に応じ、ヘルメット、メガネおよびライフジャケットを着用させる)

【8. 期待される効果】

(1) ASTに対して

- ①特にTRI大会が開催されていないNFで、アジア大会開催の可能性が高まる
- ②本プロジェクトへの参加がきっかけになり、アジアでの上級TO(L2、L3)資格保有者が増加する

(2) TRIJに対して

- ①選手育成に加え、競技運営スタッフの育成面でもASTのリーディングNFとして活躍できるようになる

以下補足

プロジェクト活動内容の変更について

1st stage (2022～2025年)

- * TRI大会を経験していないAST各国TOをTRIJ大会現場に招き、準備段階からの流れを体得してもらう

2nd stage (2026年～)

(対面)

- * ATDもしくはTD候補者をAST各NFからTRIJ大会現場に招き、全体を把握しながら起こりえるアクシデントを想定し、対策を講じるトレーニングを積む
- * 費用対効果を考慮する習慣をつける
- * チームメンバーをとりまとめ、イベントを遂行する方策を学ぶ

(オンライン)

- * プロジェクトで学んだ事柄の自国での展開状況を報告する
- * 自国でTRI大会を開催準備する際の課題を抽出し、報告する
- * 本プロジェクトの改善要求や追加希望事項を報告する

1 stage TO ディベロップメントPJ

これまでの経緯

① 2022.11 (WTC 宮崎) 4人参加(26人応募)

フィリピン、マレーシア、ヨルダン、**ネパール**

② 2023.5 (ATC 大阪) 5人参加(17人応募)

ウズベキスタン、インドネシア、韓国、シンガポール、ヨルダン

③ 2023.11 (WTC 宮崎) 4人参加(7人応募)

マレーシア、フィリピン、タイ、**イラン**

④ 2024.11 (WTC 宮崎) 2人参加(人応募)

シンガポール、モンゴル (渡邊さん対応)

⑤ 2025.9 (ATC 蒲郡) 3人参加(人応募)

カンボジア、シンガポール、韓国、

⑥ 2025.10 (APC 千葉) 5人参加(人応募)

ベトナム、フィリピン、ネパール、ウズベキスタン、キルギスタン

2026年度の対象大会案→2会場同時募集

候補1 : 2026 World Triathlon Para Cup Chiba City

開催日 : 2026年10月11,12日

開催場所 : 千葉市稲毛海浜公園

特徴

- ①エリートパラトライアスロンのプロトコールと留意点が体得できる
- ②エイジおよびキッズ大会運営が経験できる
- ③成田または羽田からのアクセスが容易

スケジュール

- ①公募 : 8月24日～9月7日
- ②選考 : ～9月11日
- ③ビザ申請、事前オンライン会議 : 9月中
- ④現地着 : 10月8日
- ⑤帰国 : 10月13日

2026年度の対象大会案→2会場同時募集

候補2 : 2026 World Triathlon Cup Miyazaki

開催日 : 2026年11月14,15日

開催場所 : 宮崎市シーガイア周辺

特徴

- ①ワールドカップ大会の開催に当たり、プロトコールと留意点が体得できる
- ②エイジおよびキッズ大会運営が経験できる
- ③

スケジュール

- ①公募 : 8月24日～9月7日
- ②選考 : ～9月11日
- ③ビザ申請、事前オンライン会議 : 9～10月
- ④現地着 : 11月11日
- ⑤帰国 : 11月16日